

又聞きの 思い出

#4

女は愛を探しているし、男は身勝手だし……、
まだ若い私の人生の教訓のひとつになりそうです。

初演は2004年ニューヨークのアトランティック・シアター・カンパニーで上演されました。『A Second Hand Memory』というウディ・アレンの芝居を、鈴木小百合さんがウディ・アレンの本を訳した関係でエージェントから紹介されて、古城十忍さんが上演しようと言って実現したんです。

萩原流行が演じるルー・ウルフという宝石商がいて、その奥さんがフェイ・ウルフ(西海真理)。娘のアルマ・ウルフがワンツーワークスの関谷美香子。達者な女優です。息子・弟はエディ・ウルフ(重藤良紹)。お父さんは男の子が欲しかったから娘のアルマとことごとく合わない。アルマが出て行った。このアルマが又聞きのおぼろげな思い出——つまり自分の記憶ではない、聞いた話だけどって言って語る。

何も解決しないまま終わるんですよ。最後の台詞「音下げてくれ」っていうのを聞いた瞬間に、『ガラスの動物園』のローラの「その蠟燭の火を消してくれ」のなぞりだなと。家族というものから出て行きたい、自分を試したい『ガラス』の青年のトムのシチュエーションを、ユダヤ家系の家庭環境に移して作った話だなっていうのが最後の一言でわかって。

装置もおもしろく、ロサンゼルスとマンハッタンの両方を見せたり、電話の置き場が4カ所くらいあるんだけど、その位置で場所を示したり。

いろんなことが解決しないまま終わるのもおもしろい。途中、何かあるとお姉さんが出てきて、「いいかげん私の夢に出てくるのをやめなさい」とお母さんが言う。家族にとっては厄介者でもお姉さんが外から又聞きで物語にしましたっていう。お姉さんは作家志望なんですよ。ね。

萩原流行の存在感は抜群で、「困った親父」を造っていた。ワンツーワークスの奥村洋治が劇団の顔だけあってさすがに上手かったです。

小田島恒志(「演劇時評」より、『悲劇喜劇』2011年8月号)

人生は”ヒニグ”ですね。楽しかったです!!

気づけばすぐそこにある出来事でした。我が道をしかと歩きたいと思いました。

[男性:自営業] 5月29日(日)14:00観劇

ウディ・アレンの創作は日本人には少々難しい、理解のしにくい作品となることが予想されましたが、その理解しにくい部分を逆手にとって笑いの部分へと消化できる舞台に出会えて嬉しく思います。

[男性:会社員] 5月29日(日)14:00観劇

ウディ・アレン作ということで予測はしていましたが、半端ない会話量の応酬がすごかったです。

各々の思惑に納得したりできなかつたり……そこがリアルな人間関係、家族の関係なのだな～としみじみ感じました。

アルマをナレーターにという設定がさすがに面白く、セットの使い方も、時間や空間をうまく混乱させずに切り取られていて(でも役者さんは大変でしょうね)、会話劇ながら動きを伴ってこそその演劇の醍醐味を感じました。

結局は各々が真の気持ちを無理に押し込めず、ぶっちゃけあった、ある種の爽快感を感じました。

[女性] 5月24日(火)19:00観劇

ウディ・アレン作品も、役者としての彼も大好きなので楽しみに伺いました。

舞台空間の使い方や照明の使い方、キャストの個性、どれもおしゃれで、ちょっとイヤミで、かわいらしく、憎めない、ウディの世界観がちりばめられ、とても引き込まれました。

[女性] 5月27日(金)19:00観劇

この舞台展開はすごく良かった。

空間の使い方が見事です。New YorkのOFF・OFFにいるような気分になりました。

[女性:自営業] 5月28日(土)19:00観劇

■ -----
キャー、ウディ・アレンらしいわ。久々に目が離せない。

人生は夢を追いかけ……私は若いころ仕事に夢中で、今、いろいろ追いかけている。お金がないのはたまらない。みんながこれから幸せになれることを観終わった後も望んでいます。

[無記名] 5月22日(日)14:00観劇

■ -----
なんだアメリカの話か……と思っていたのですが、ハッピーエンドでないこの話、なんかリアルすぎて身につまされました。ナレーターを設定して、だいぶ脚色してあると最初に断っているのですが、現実にはもっと悲惨なものだった気がします。

アメリカ人のキャスト名であることを、気にならなくさせてしまうほどの役者の熱演、素晴らしかったです。

[男性] 5月28日(土)19:00観劇

■ -----
役者さん全員が上手くて、とても引き込まれました。

女は愛を探しているし、男は身勝手だし……現実みたいですね。とうい、登場人物はみんな自分勝手に見えました。「なんでこんな人のこと好きになるの?」って思う人ばかりで。

まだ若い(20代半ばです)私の人生の教訓のひとつになりそうです。

[女性] 5月28日(土)19:00観劇

■ -----
タバコ、スパSPA吸って、ウイスキーをグッと飲みたくなりました。それしか考えられない。ステキ。

[女性:医療事務] 5月28日(土)14:00観劇

■ -----
皮肉で、最後に救いがなくて、なんとも言えない話ですね。

どうなっていくのか、何が過去にあったのか、どんどん引き込まれていきました。

[無記名] 5月19日(木)19:00観劇

■ -----
わかってはいても、それに反することをしてしまうのがヒトというものなんですね……。

劇中のエピソードのようなものはありませんが、自分にもそれに近いものがあると思います。

意志に反してまで行動した人が「勝ち組」になるのかも。

いろんな思いを考えながら観ることができました。

[女性] 5月21日(土)19:00観劇

■ -----

幸福な家庭とは何か、と考えさせられる作品でした。

[男性:音楽家] 5月23日(月)19:00観劇

■ -----

狂言まわしがいる舞台はなかなか新鮮でした。

どんな人生を生きるのか、それは自分の選択だけけど、生まれもって背負っているものとの折り合いかなあ。難しい。何かを得るためには何かを捨てる必要があるんでしょうね。

母が過保護で息子をダメにしている感じもする。将来は自分で切り開くもの。手を差し伸べすぎはよくないでしょう。父の偏愛も許せない。日本らしいなどは思いますが。成功したお兄さん以外は確かに自分のことばかり考えてる。

[無記名] 5月23日(月)19:00観劇

■ -----

それぞれの個性が際立って良かったです。

舞台空間が内容に合っていて、面白い使い方しているなあと思いました。

人間って愚かで悲しいですね。そこがよいのか……。

[女性] 5月29日(日)14:00観劇

■ -----

なんだか見てはいけないものを見ているようで、とても面白かったです。

リアルに遠く離れた海外の家族を見ているようで、不思議な感じがしました。

[無記名] 5月26日(木)19:00観劇

■ -----

難しい本を見事に舞台化した作品です。

ユーモラスでシニカルで、少々身につまされる。ある意味ショッキングな舞台でした。

[男性] 5月24日(火)19:00観劇

■ -----

すごく面白かったです! 人間味があふれすぎてました!! この続きも見たくまりました!!!

[無記名] 5月28日(土)19:00観劇

■ -----

現代にも通じる内容だった。親の過度の期待は子どもをダメにしますね。

一番くだらないのは男女の関係で人生を狂わせてしまうこと。

なぜ人は異性を好きになるんでしょう。

[女性] 5月29日(日)19:00観劇

■ -----
姉が聞いた話をつむぐ形が面白かった。

さもアメリカ風って感じ、不倫不倫はこんなに日本じゃない、よね? あるのかな?

内容だけならこんな話はざらにあるのを、「思い出」として組み立てていくのが面白かったのか。

エディが最後去っていったのが、本当に腹が立ったけど、ニューヨークに残るのもやっぱり腹が立つと思う。

[無記名] 5月24日(火)19:00観劇

■ -----
みんなそれぞれが自分のやりたいことを、周りの人、家族のために我慢して生活している。ほんの少しだけやりたいことをやろうと決める。それが、とても最悪のタイミングで今までのすべてを台無しにして、しかも関わった人を最大に不幸にしてしまう。とても悲しいお話です。

自分のやりたいことが周りの人の幸せになる、周りの人を幸せにすることに一生懸命になることで、自分も充実した人生を過ごせる、そんな生き方ができればと思う。

生きることは自分一人ではないということをベースにして、あがいて生きていきたいと思う。

[男性:会社員] 5月23日(月)19:00観劇

■ -----